

しい適性をもっています。これを開発したら、その効果は大

きく、その将来はまことに洋々たるものがあるのです。

期待される大きな開発効果

この地域は、有明海と不知火海にのぞむ地域で、北からいえば荒尾市、玉名市、熊本市、宇土市、八代市の五市と、そのまわりの二十町村の範囲です。

熊本市を中心に半径三十キロメートルをえがくと大体その中に含まれます。面積にして千三十四平方キロメートル

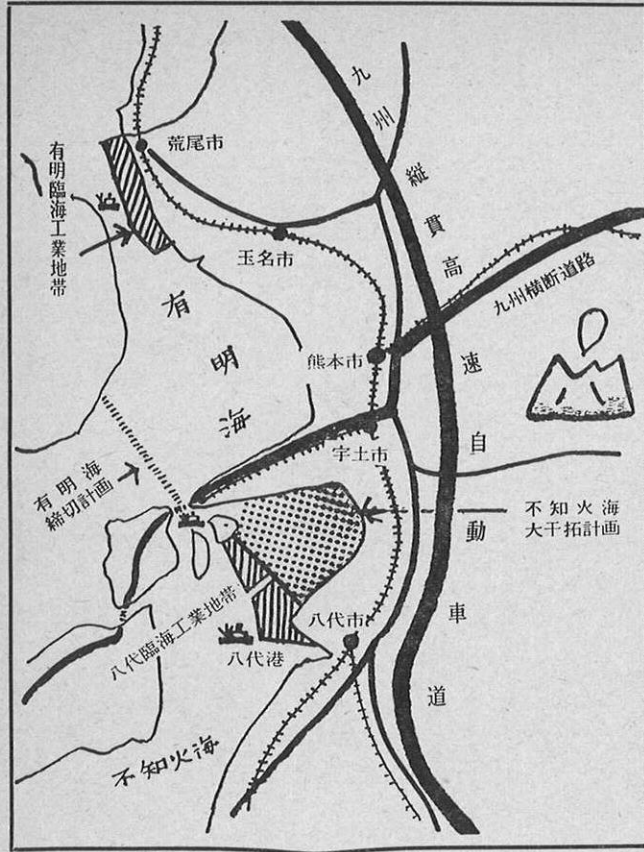
(全県の十四%)、人口八十八万五千人(全県の四十八%)で、昭和三十五年の工業出荷額は五百億円で全県の六十二%を占めています。

問 荒尾市から八代市までといえ

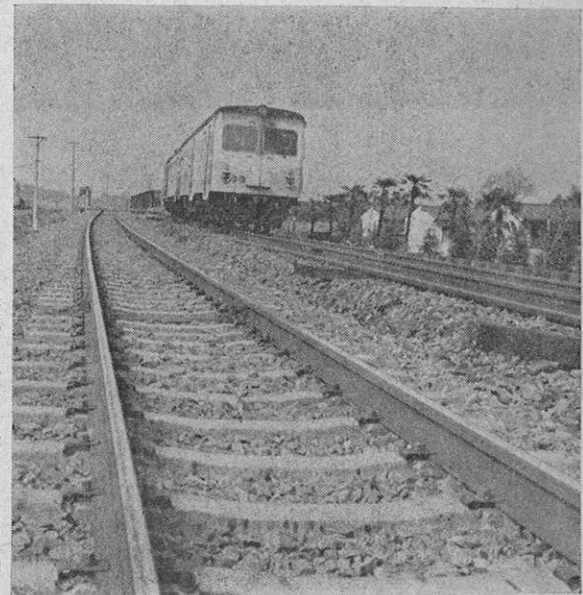
ば、あまり広すぎるようですが、

答 ごもつともです。しかし、「新

産業都市」は、いわゆる四大工業



地帯につぐだけの工業生産力をもつ可能性をもち、しかもその開発効果が広くその地方、例えば九州に波及して地域開発に役立つような地域という基本的な考え方からすれば、このくらいは必要だと思えます。



そのう鹿兒島本線が複線化され、九州縦貫高速自動車道が玉名市、熊本市、八代市の郊外を通るようにな

復線化が終った熊本・川尻間、特に地域の背後地も広いし、南九州、西九州への影響力も非常に大きい地域といえます。大分・鶴崎も日向・延岡もこの開発効果の点では有明不知火地域にかなわないのではないのでしょうか。

受けいれ態勢すでに万全

問 この地域が九州の中心部に位置的にすぐれていることはよくわかりましたが、工業開発には、用地、用水、輸送、条件、労働力が重要な要素であるといわれています。この点ではどうでしょう。

答 まず、広い工場適地があります。地先一帯が遠浅で地盤がよいので、海面埋め立ても容易ですし、内陸部にも工場の適地が多いことが通産省の調査でもはっきりしております。

工業用水は、良質豊富な球磨川、菊池川、加勢川の水や地下水があるのはご承知のとおりです。輸送面からみると、地先一キロメートルは急に水深が深くなっているために、大型港湾(マイナス十二〜十六メートル)の建設も容易であり、道路も一級国道三号線、五十七号線が着々整備されています。九州横断道路も、オリンピックまでには完成しようと工事が進められています。

鉄道も、鹿兒島本線、豊肥線、三角線、肥薩線がありますし、交通網からいっても、まさに「九州の中心」といっても過言ではありません。労働力については、ご承知のように毎年多くの県外就職者(新規

学卒九千人、一般就職者一万三千人)を出している状況ですから、この若い人々に、県内で働いていただければ、又、量の問題だけでなく、質の面からいっても、熊本大学をはじめ、本年四月に開校した国立有明工専、そのほか多数の高校など恵まれた教育機関があります。

特に工業高校も、熊本、八代のほかに、水俣、人吉、玉名、本渡に新設しましたし、質のよい労働力の確保が容易です。このほか石炭、石灰石、砂鉄、木材、農産物等、多くの資源に恵まれていますし、阿蘇、天草、雲仙の国立公園や、多くの緑地、公園、温泉に囲まれた快適な環境にもめぐまれています。

夢多い開発の青写真

問 このようにすぐれた適性をもっている「有明不知火地域」が指定をうけると、将来の発展はすばらしいものがあります。青写真に

よつて、希望にみちたこの地域の将来の姿を見てみましょう。

この地域は大体、北部の「有明地区」、南部の「八代地区」、中央の「熊本地区」の三ブロックに分けられますが、この三地区がそれぞれの持ち味をいかながら、

たがい結びついて、総合的な内容と働きをもった、スケールの大きい工業都市としての開発をはかることがねらいです。

北部は重工業を：有明地区

まず、北部の「有明地区」には、ご承知のように八幡製鉄系の有明製鉄が、有明海底と玉名地区陸上の豊富な砂鉄を主原料として製鉄所を建設することが決定して



活況しめす八代外港……昨年11月に完成した八代外港は、いま千葉県からの砂鉄船、沖縄からのパルプ船など、大型船の入港がひきもきらず……さらに1万トン級岸壁や5千トン級岸壁もつぎつぎと工事が進められここ1、2年の間には「八代臨海工業地帯」の玄関として、大きな役割を果すことになろう。写真はパルプ材を積んで入港した大型船。